

牛群検定ビッグデータ（その37） ～BHB（β-ヒドロキシ酪酸）について～

牛群検定のビッグデータからわかるいろいろなことを本コーナーで紹介していきます。

牛群検定では乳成分の新しい検査項目への対応にも取り組んでおり、本コーナーでも脂肪酸組成（FAO）といった検査項目を紹介してきました。今回は、BHB（β-ヒドロキシ酪酸）を紹介します。BHBはケトン体の一種です。この値を見ることで乳牛の栄養状態を知ることができ、0.13mM/Lを越えるとケトosisが疑われます。

都府県の2023年以降のデータから、平均や分布を集計しました（BHBの値が0より大きく、1.0までのデータを使用）。

上図は分娩後240日以内の分布、下図は分娩後60日以内の分布です。

分布は変わりませんが、牛のエネルギーバランスがマイナスになる泌乳前期の牛では、BHBの平均値や中央値が高くなるのがわかります。特に、0.13mM/L以上の頭数割合では、泌乳前期は9%と大きく、より一層ケトosisへの注意が必要となります。

